

平成 26 年度  
筑波大学基金 活動報告及び実績報告

国立大学法人筑波大学  
連携・渉外室

## 平成 26 年度活動報告

平成 26 年度は、「開学 40+101 周年記念募金」への活動を前年度より引き続き実施しました。また、こうした活動を通して、卒業生、地域企業、諸団体等との連携を強化するとともに、「筑波大学校友会」の SNS サイトを充実させ、ネットワークの拡充を図りました。さらに、平成 27 年度より事業開始となる「筑波大学校友会カード」の準備を進めました。

これらを推進することにより、周年募金終了後も安定的かつ恒常的な募金体制を確立することに努めました。

### ■募金活動

「開学 40+101 周年記念募金」を 9 月 30 日まで実施し、前年度に引き続き企業訪問、基金パンフレットの配布を行った。詳細は資料 3「開学 40+101 周年記念募金活動報告及び実施報告」にて報告する。

### ■筑波大学公式クレジットカード事業

三井住友カード株式会社と提携契約を締結し、平成 27 年度より、大学関係者を加入対象とするクレジットカード機能付き大学カード（筑波大学校友会カード）事業を開始することとなった。カード事業による利益の中の一部が筑波大学基金に寄附され、在学生への経済支援や課外活動支援に充てられる仕組みとなっている。現在、入会促進に向けた広報を進めるとともに、また、カード提示による特典協力先を開拓している。

この事業を通じ、恒常的な寄附収入の確保と併せ、在学生・卒業生及び教職員等大学関係者の一体感の醸成、同窓会をはじめとする校友会事業の活性化などを図ることとする。

### ■地域との関係構築

「学長を囲む会」のメンバー拡大に努め、研究成果や大学に関連する情報を発信し、地域との交流を深めた。参加者も増加し、毎回 100 名を超える規模になった。

開催日	研究紹介
平成 26 年 5 月 29 日 (水)	医学医療系 中田由夫 准教授 「減量支援プログラムのエビデンスづくり」
平成 26 年 9 月 16 日 (火)	生命環境系 渡邊信 特命教授 「藻類バイオマスの活用」
平成 26 年 12 月 8 日 (月)	人間総合科学研究科体育学専攻 工藤公康氏 「挑戦力」
平成 27 年 3 月 16 日 (月)	松村明 附属病院長 「筑波大学附属病院における先進的取り組み」

### ■卒業生との連携（筑波みらいの会）

平成 24 年度に立ち上げられた「筑波大学出身経営者の会（仮称）」が、平成 25 年 5 月の総会において、「筑波みらいの会」として正式に発足し、今年度も 2 回（5 月と 10 月）の会合を開き、経済界での卒業生ネットワークの拡大を図った。（現在、会員数は 51 名）当会は設立意義として次の 3 点を掲げている。

- (1) 会員同士が連携・交流すること

- (2) 会員から大学及び学生に対して貢献・支援・連携すること
- (3) 大学の成果・情報を会員に提供すること

同会では、7月に本学との共催により、起業家養成を目的とした「TCC (Tsukuba Creative Camp)」を開催し、さらには11月の学園祭開催に合わせ、在学生に向けた「TCC 発表会～筑波の起業が未来を変える！～」を開催し、TCC 優秀賞のプラン発表、パネルディスカッションを行うなど、同会メンバーの尽力により精力的に活動いただいているところである。

なお、10月には平砂共用棟内にインキュベーション・オフィスを開設したほか、平成27年度からは授業科目として起業家養成講座「学群自由科目（筑波クリエイティブ・キャンプ）」を開設し、卒業生等のキャリアを活用しつつ世代を超えた交流の促進を図ることとする。

### ■筑波大学校友会事業の推進

「筑波大学校友会」は、本学と卒業生・修了生、在学生、元教職員、教職員、課外活動団体及び各同窓会といった本学関係者との連携強化（交流促進、相互支援、最新情報共有化など）を目的としたネットワークの構築を進める一環として、平成21年度より進められてきた「筑波大学ネットワーク（仮称）」が、平成23年11月に「筑波大学校友会」と定められたものである。現在は、第1ステージとして、平成24年4月から校友会サイト及び同SNSを運用しているが、あくまでバーチャルなネットワークという位置づけとなっている。

今後は第2ステージとして「校友会」の組織化に向けた検討を開始することになっており、既存の同窓会組織等との連携を踏まえた校友会組織の整備を進め、卒業生をはじめとした関係者向けサービスの拡充、ネットワークの拡大と世代を超えた交流の活性化を図っていく。

### ■筑波大学基金からの支援状況

前年度の寄附受入れ金額を基礎とし、その50%相当額（使途特定を除く）を次のとおり支援を行った。

事 項	支 援 額 (単位:円)
宿舍祭	300,000
学園祭	800,000
つくばスカラシップ	5,300,000
国際統合睡眠医科学研究機構 ※	3,750,373
体育専門学群国際交流支援 ※	3,000,000
ホームカミングデー ※	500,000
筑波クリエイティブ・キャンプ ※	630,760
筑波大学附属小・中・高等学校 ※	240,000
構内自転車等環境整備 ※	50,000
合 計	14,571,133

※は使途特定による寄附

# 平成 26 年度実績報告

## ■平成 26 年度実績 ※H26. 10. 1～H27. 3. 31

開学 40+101 周年記念募金期間 (H26. 4. 1～H26. 9. 30) を含まない。

○現金による寄附 42,967,712 円 2,585 件

### 【内訳】

単位：円

区 分	寄 附 額	件 数
現金による寄附 (一般基金)	20,114,922	2,465
うち 法人	4,540,373	8
うち 個人	15,574,549	2,457
筑波大学スポーツアソシエーション (TSA) 事業	875,798	101
附属病院支援事業 (病院寄附金)	21,976,992	19
合 計	42,967,712	2,585

○財物による寄附 12,000,000 円 2 件

### 【内訳】

単位：円

寄 附 者	評 価 額	内 容
個人	6,000,000	ブロンズ像 (芸術学系棟)
個人	6,000,000	ブロンズ像 (総合研究棟 A 棟)
合 計	12,000,000	

○運用実績 40,655 円

### 【内訳】

単位：円

区 分	利 息
普通預金利息	40,655

※平成 26 年度、譲渡性預金については周年募金支援活動費確保のため預入せず、普通預金へ預入した。

## ■教職員向け給与控除による寄附実績

教員 150 人 (全教員 2,429 人) 参加率 6.2%

事務系職員 247 人 (全職員 1,390 人) 参加率 17.8%

(附属病院を除く参加率 24.1%)

寄附額 計 2,824,700 円

## ■古本募金

延べ 160 人 寄附額 計 373,335 円

## ■基金設立時からの累積寄附額

平成 22 年 4 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月 31 日

寄附総額 463,569,530 円 16,838 件（延べ件数）

【内訳】	寄 附 額	単 位：円
区 分	寄 附 額	件 数
現金による寄附（特定基金含む）	323,046,022	16,068
財物による寄附（評価額）	118,406,381	25
震災義援金	22,117,127	745
合 計	463,569,530	16,838

## 平成 26 年度総括

平成 26 年度は、前年度に引き続き「開学 40+101 周年記念募金」事業活動を展開した結果、卒業生、教職員、退職教職員、関係する企業・団体等から多大なるご寄附をいただき、目標額を達成することができました。引き続き、様々なステークホルダーの方々との関係を強化し、寄附者の拡大へと繋げ、大学の使命である教育研究・人材の育成に努めてまいります。

なお、平成 26 年度からは、当記念募金の目的でありました「グローバル人材の育成」の一環として、当記念募金への寄附を原資とした「海外留学支援事業」を開始し、学内公募・選考を経て、9 件（総額 3,600 千円）の支援を実施いたしました。当事業については、平成 27 年度以降も実施予定であり、皆様からの寄附がより有効に活用されるよう、引き続き関係部署と連携のうえ協議してまいります。

また、寄附の多様化の一環として開始いたしました「古本によるご寄附 FUTURESHP with BOOK DONATION」は 3 年目を迎え、「古本募金」として着実に定着しつつあります。募金額も前年度比 25% 増となりました。平成 26 年度からは学内における協力体制も整備され、学内に古本回収ポストを設置してご利用いただいております。「古本募金」は比較的気軽に基金活動へ参加いただける取組でもあり、今後もより多くの方にご参加いただけるよう PR に努めてまいります。

平成 27 年度においては、新たに大学公式クレジットカード事業が開始されましたが、基金活動のさらなる発展を図るべく、新たな方策を検討しつつ、一方で、「筑波大学校友会」の組織化をはじめとした、学内外における基盤整備を推進し、来る開学 50 周年、さらにその先の将来を見据えた基金への支援体制の整備を図ってまいります。